

組織的対応

最近、これまでの予想をはるかに超えた大きな事件や事故が学校でも起きるようになりました。このような状況の中で、子どもの心や体を守り、安全であるという安心感をすべての子ども・保護者に実感させることが大切です。そのためには、教職員一人一人が、日常的に危機意識をもつとともに、緊急時に全教職員が迅速かつ組織的に取り組むことが重要になってきます。そのことが、保護者や地域から信頼されることにつながります。

ここでは、聞き取り調査をもとに組織的対応を5つのポイントに分け、それぞれに対応したスキルを紹介しています。また、次ページから聞き取りしたスキルの具体例を見ることができるようになっています。

ポイントとスキル

ポイント	スキル
■ 報告・連絡・相談の徹底	<ul style="list-style-type: none">○ 報告・連絡・相談体制を確立する○ 初期の対応を迅速かつ的確に行う○ 情報を共有する
■ チームワーク	<ul style="list-style-type: none">○ 役割分担を明確にする○ 気軽に相談できる体制や雰囲気をつくる
■ 管理職のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none">○ 危機管理に対する学校の方針等を明確にしておく○ 管理職が迅速かつ的確に判断する
■ 関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none">○ 日常的にPTA役員等とコミュニケーションを密にしておく○ 関係機関との連携を密にしておく
■ その他	<ul style="list-style-type: none">○ 教職員の研修を実施する○ 情報の窓口を一本化する○ 保護者や地域に対して、情報を発信する

組織的対応

スキルの具体例

■ 報告・連絡・相談の徹底

◆報告・連絡・相談体制を確立する

- ・担任が抱え込まないようにしている。何かあったら、学年主任、生徒指導主事、教頭、校長に報告し、対応している。親も「学校として対応してもらっている」という意識になると安心する。 (中 50 男・管理職)
- ・基本的には学年部で対応している。今までトラブルを自分のこととしていたが、相談することの大切さに気づいた。例えば、子ども同士のけんかなど学年で連絡して対応している。 (小 40 女、高 20 女)
- ・何か話があったときには、学年で検討し、必要であれば管理職に報告する。ある程度の話までは、担任と学年主任で話す。ちょっとこじれそうかな…、という場合は、担任と一緒に学年主任としてついて行っていた。(保護者と会う) 2回目以降、違うタイプの先生がついて行くことで、こじれたところが収まることもある。 (高 40 女)

◆初期の対応を迅速かつ的確に行う

- ・保護者は、早期のレスポンス(対応)で安心する。早期の対応を組織で行う。校長を中心に何かあったら検討して「学校で対応しています」と伝えることが大切である。事実を確実に伝えること。 (小 40 男、中 40 女)
- ・学年主任、管理職などと打合せを取るように心がけている。何か起きた時には、初期対応が大切である。組織で対応することで、難しい問題もスムーズに解決できる。 (中 40 女、高 40 男)
- ・子どもが家出をした時、すぐに全職員で捜索し、無事保護したことがあった。学校の対応が早かったことと全職員で捜索したので保護者からとても感謝された。 (中 50 男)

◆情報を共有する

- ・週に1度、全職員での情報交換会がある。放課後20分程度だが、情報を共有できるので、担任として安心できる。生徒指導の係として、要請を受けて見回りをし、その結果をまた伝えることで信頼を得ている。
(小30男)
- ・きょうだいがいる担任同士で、家庭訪問での情報をやりとりし、状況等を共有するようにしている。
(小50女)
- ・月2回、チェックリストを使って子どもの様子を把握している。気になる子どもがいる場合は、職員室で話している。また、校長、教頭、教務主任、関係の先生を入れて協議している。
(小40女)
- ・担任が、学年部や部活の顧問と連携している(あいさつ、授業をきちんと受ける、掃除等)。担任だけでなく、保護者、他の先生、管理職とも連携し、情報交換している。
(中40男)

■ チームワーク

◆役割分担を明確にする

- ・内容によって関係部で対応したり、管理職が対応したりしている。教員は、各自どう対応するのかを把握しておかなければならない。本校では、職員研修もやりながら確認・周知している。
(高50男)
- ・家庭訪問、面談等で理解が得られにくい場合は、必ず複数で対応している(2、3人を基本とする)。一人は、担任等、人間関係のある者、もう一人は教頭や生徒指導主事などを基本とする。言う内容、役割分担をある程度決めておく(相手の立場を共感的に聴く者と学校の考えを伝える役)。
(高40男)
- ・家庭訪問では、基本的に複数で対応している。学年が中心で、学年主任や副担任、学年で当該生徒に対応できる先生を選定する。重要な場合は、必ず学年主任がついて行く。
(高30男)
- ・全体を把握している養護の先生と連携を密にしている。例えば、女の子の顔に傷がついたとき、いろいろ調べてくれて保護者への報告も迅速に行ったので安心された。
(小30女)
- ・生徒指導関係では、生徒指導部—学年会—管理職の三者をうまく機能させる生徒指導主事の役割が重要である。また、気軽に相談できる体制、雰囲気があるので、職場が明るく、活気がある。
(中30男、中50男)

◆気軽に相談できる体制や雰囲気をつくる

- ・職員の中で、子どもの話題で気軽に話ができている。子どもの様子が職員の話から分かる。気軽に相談できる体制、雰囲気があり、話すことで安心し、ストレスをためていない。いつも相談できる先生が周りにいることが大切である。 (小30女、中40女)
- ・職員室で子どものことを常に話している。協働体制で学校が一体化している。授業を通して子どもを変えようという共通理解がある。学校の目指すところがぶれないので安心して子どもと関わることができる。 (小50女)
- ・生徒指導上の問題は、生徒指導担当の先生と対応したり、前担任に入ってもらったりしている。気軽にいっしょに家庭訪問できるように先生同士の日頃の関係づくりが大切である。 (中40男)
- ・生徒指導については、担任と補導で連携している。特に不登校や家庭的問題については、スクールカウンセラーと連携している。学年・教科どの先生もお互いを知り合っていて、全校で育てる雰囲気がある。 (中40男)

■ 管理職のリーダーシップ

◆危機管理に対する学校の方針等を明確にしておく

- ・必要に応じて、危機管理に対する対応方針・対応方法・役割分担等の確認を行っている。そのため、全職員に危機対応の意識が根付いている。 (小50男、中50男)
- ・校長自身が逐一、苦情電話、事件、トラブル等子どもの記録をきちんと取っている。その記録をもとに対策等を検討している。毎年ノートが2冊ぐらいになる。 (小50女・管理職)
- ・組織対応のマニュアルは学校で作成しているが、結局、管理職の判断が大切である。それがぶれてしまうと信頼を失う。 (中50男)

◆管理職が迅速かつ的確に判断する

- ・連絡帳に学校、担任への不満を書くことが多いので、文面を見て内容によっては、校長先生がコメントを書いて返している。 (小30女)
- ・問題が起こった時、校長のリーダーシップのもと全職員で即座に対応できた。教職員からの信頼が厚く、他の教職員からよく相談されている。 (小50女)
- ・校則が守られていなかったため、校長自らが、PTA新聞で“親へのメッセージ”というテーマで校則について理解を求めたことがあった。教職員もまとまってきている。教員がやる気になるかならないかは、管理職次第である。 (中40女)

■ 関係機関との連携

◆ 日常的にPTA役員等とコミュニケーションを密にしておく

- ・PTA役員は、保護者に影響力がある。こじれる要望等がPTAの役員を通してあがってくることも多い。これをほっておくと大きな問題になる。日頃より、PTA役員とも信頼関係を築き、情報があがってくる態勢を築くことも大切である。

(中40女、高50男)

- ・PTA活動やPTAの懇親会で役員さんの意見、要望を聞き、すぐに対応している。例えば、PTA新聞に、担任の紹介があったらという意見があり、取り入れた。また、食堂のメニューを新聞に載せることも保護者の意見で実現した。

(高40男)

- ・PTA役員の存在は大きい。役員さんの活動をサポートすることで、PTAとの関係が良くなったし、他の保護者にも信頼されるようになった。

(中40男、高40男)

- ・お父さんの会を組織し、レクリエーションや懇親会を通して日常的にコミュニケーションを図っている。そのため、学校行事などにおいて、たくさんのお父さん方に協力していただいている。

(小50男、中30男)

◆ 関係機関との連携を密にしておく

- ・学校の様子は、教育委員会に常々、報告、連絡、相談している。必ず、情報を伝えるようにしている。日頃から、何かあったらバックアップしてもらう体制を作っている。

(小50女)

- ・不登校傾向の子どもはスクールカウンセラーと連携して取り組んでいる。また、定期的に生徒指導部や学年部とスクールカウンセラー合同で援助の方策について会議をもっている。

(中40男)

■ その他

◆教職員の研修を実施する

- ・保護者からの意見や要望等にどのように対応したらよいか、教職員の研修を毎年実施するようにしている。

(中 50 男)

◆情報の窓口を一本化する

- ・マスコミへの対応が必要な場合を想定し、対応はすべて教頭が行うように窓口を一本化している。

(小 50 女、高 50 男)

◆保護者や地域に対して、情報を発信する

- ・保護者や地域に対して、子どもの学校での様子や危機管理に対する学校の取組等を学校便りとして定期的に情報を発信している。

(小 50 男、中 50 男)